



- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

北朝鮮による拉致問題について

～人権教育の一環として～

校長 白石 徳一郎

師走の候、皆様におかれましてはますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、12月は4～10日が人権週間、10～16日は北朝鮮人権侵害問題啓発週間でした。そこで、人権教育の一環として本校で取り組んだことを紹介します。

11月11日(土)の学校公開日に6年生が道徳の授業で、横田めぐみさんのご両親の思いを通して、家族のきずなについて考えました。児童の感想の一部を紹介します。

<6年生の感想から>

- ・ぼくはこの話を聞いて、かわいそうではすまない話だと思いました。心の底からかわいそうと思いました。ちゃんとめぐみさんを返してほしいと思いました。
- ・横田めぐみさんのように拉致された人がいっぱいいて、今も拉致されている人がいるかもしれないので、拉致問題をなるべく早く解決したいと思いました。

警察庁の発表では、北朝鮮に拉致をされた可能性のある人(特定失踪者)は全国に800人以上いると言われていて、埼玉県にも24人います。浦和市(現さいたま市緑区)にお住まいで埼玉銀行にお勤めだった佐々木悦子さん(当時27歳)は、平成3年に「仕事に行く」と言って出かけたまま失踪しましたが、北朝鮮の元指導員が失踪した2年後に北朝鮮国内で会ったという証言があり、拉致濃厚とされています。佐々木さんのお母様は現在85歳になられていますが、今年10日の北朝鮮人権侵害問題啓発週間初日に、浦和駅西口の街頭署名に参加されていました。拉致が平成3年まで続いていた可能性があることに驚かれる方も多かもしれませんが、特定失踪者が失踪した時期は、氏名と写真が公表されている方々だけで平成15年まで続いており、平成だけで60人もいらっしゃいます。令和の今、拉致はもう起きないと言えるでしょうか、万が一、拉致されたとしても誰にもわかりません。そして、助け出すことができずにいるのです。平成26、27年頃、政府認定拉致被害者の田中実さんと特定失踪者の金田龍光さんの一時帰国について北朝鮮から提案を受けていたことが令和4年に報道されました。一時帰国は実現していませんが、拉致された方々は今も北朝鮮で帰国できる日を待っていることでしょう。

12月6日(水)の校長講話で、全校児童に拉致問題について簡単にお話をして、私たちにできることとして、募金、ブルーリボンバッジの着用、作文等の応募を紹介しました。産経新聞社が募集している「めぐみさんへの手紙」を紹介したところ、20人以上の児童が書いてくれましたので、一部を紹介します。

<6年児童の手紙> (一部抜粋)

「めぐみさんへの思い」

(前略) 私は校長先生の話を聞いて、めぐみさんやめぐみさんの親、早紀江さん、滋さんがどんな思いをしたのが伝わりました。北朝鮮はめぐみさん以外にもたくさんの人を拉致していることも知りました。北朝鮮の人はいろんな人を拉致して、いろんな人を悲しい思いにしてひどいなと思いました。私は二度と拉致がない世界にしたいです。罪のない人を拉致することがなくなるようにしたいです。横田めぐみさんや他に拉致された人を救えたらいいと思います。私の思いが横田めぐみさんに届くといいなと思います。

<6年児童の手紙> (一部抜粋)

「めぐみさんに会えることを願って」

ぼくは、6年生の学習で、めぐみさんのことを知りました。そして拉致問題のことを知って、最初はこわいなと思いました。(中略) お父さん、お母さんの愛ってすごいと思いました。(中略) めぐみさんは、北朝鮮という所に連れていかれ、すごく悲しいです。(中略) めぐみさんも、すごく悲しんでいると思います。(中略) ぼくは、毎日家族と一緒にいることが幸せです。離れることは、すごく悲しいことです。なんとしてでも、すぐそばに行って、日本に戻ってこられるように力になれるといいなと思いました。めぐみさんのお母さん、体に気をつけて、めぐみさんに早く会えることを願っています。

もし自分だったらと考えると、自分ごととして考えられるのではないかと思います。拉致問題は昔の話、終わった話ではなく、今も続く人権問題であることを、子どもたちにも伝えていきたいと思っています。ご家庭でも話題にしていただけたら幸いに存じます。それでは、皆さま、よいお年をお迎えください。

